



## 年頭にあたって

代表理事組合長 高橋 秀樹

令和3年の新春を迎え、組合員並びにご家族の皆様には謹んで新春のお喜びを申し上げます。

また、日頃より農協事業運営に対しまして特段の御理解と御支援、御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年の営農を振り返ってみますと、春先は降雨や土壤凍結もあり播種作業に若干の遅れが生じ、5月の干ばつの影響もあって、豆類については一部圃場にて発芽等が心配されましたが、植付作業は概ね順調に推移致しました。小麦においては、開花期の天候にも恵まれ収量・品質ともに期待しておりましたが、6月の日照不足の影響もあり、高品質ではあったものの収量は平年並みとなりました。8月末頃からは長雨となり、馬鈴薯の一部圃場では収穫の遅れが発生し、豆類については色流れなど品質の低下がみられました。しかしながら、10月以降は好天にも恵まれ、てん菜・長芋の収穫作業は順調に進みました。酪農においては、デントコーンについては適期収穫ができたものの、牧草については6月の日照不足の影響から刈遅れもあり、乳量は平年を下回る結果となりました。また、新型コロナウイルスの世界的な流行の影響もあり、各種イベントの自粛や訪日外国人旅行者（インバウンド）が大きく減少するなど、需要の減少に伴い、畜産においては枝肉価格が下落するとともに素牛価格も落ち込み、小豆についても和菓子の需要が減少し価格が低下するなど、農業分野においても大きな打撃となりました。今まで経験の無い未知のウイルスとの戦う厳しい年となりました。令和2年度の農協事業におきましては、11月末現在の仮決算では計画を若干下回る厳しい状況となっております。事業年度も残すところあと2ヶ月あまりとなりましたが、計画以上の決算になるよう更に鋭意努力して参りますので、組合員の皆様の引続きの御協力をお願い致します。

農業を取り巻く情勢は、一昨年2月1日に日EU・EPA、昨年1月1日に日米貿易交渉が発効されるなど国際情勢は依然として油断を許さない状況であり、新型コロナウイルスの感染拡大の収束が見えず不透明な経済情勢が世界中で続いている状況であります。当農協としましても、世界経済の動向を注視していく必要があります。

今後とも地域に根差した協同組合として、組合員を始め地域の人々と共に歩み、「信頼・

利用・満足される J A」の経営理念を基に、役職員一丸となり、令和3年度の事業を進めて参る所存でありますので、引き続き組合員の皆様のご協力をお願い致します。

令和3年も天候に恵まれ稔多き出来秋を迎える事ができます様、併せて組合員ご家族の皆様のご健勝と、一日でも早く新型コロナウイルスの終息を迎える事を祈念して新年のご挨拶といたします。



## 令和3年の年頭にあたり

北海道農業協同組合中央会 代表理事会長

新年あけましておめでとうございます。

組合員並びに役職員の皆様には、コロナ禍にあってもその苦境にも負けず、日々営農に更に邁進されておられることと存じます。

また、地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対しても、改めて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

昨年の北海道農業は、米の作況指数が106の「良」、畑作物については収穫時期に一部地域に降雨による影響が見られたものの平年並以上の結果となり、生乳も前年の実績を超える生産となり、地域、作目によって違いはありますが概ね良い出来秋を迎えることが出来たと感じております。

しかしながら、昨年は、新型コロナウイルスとの戦いが長期化し、今までの日常とは大きく変化した1年でありました。農業分野においても例外ではなく各種イベントの自粛、外食・中食の需要減少等の影響により、各作物の更なる需給緩和が懸念されているところです。今後は作物ごとの実態を踏まえた、国産・道産農畜産物の需要喚起・消費拡大を図るとともに、外国人技能実習生が入国できないことにより、農作業の人材確保にも大きな影響が出ておりますので、北海道、全国連とも連携し、J Aグループ北海道としてしっかりとその対応を図ってまいります。

J Aグループ北海道では、昨年より道民の皆様に対し北海道農業から行動を起こすことで、農業と人、農村と都市、生産者と消費者の関係のあり方を見つめなおしていただくことを目的として「AGRI ACTION! HOKKAIDO (アグリアクション北海道)」と題した情報発信を北海道の支援もいただき、スタートいたしました。

「AGRI ACTION! HOKKAIDO」は次の3つのテーマを伝えることを目的としております。

- ① 食料自給率に対する理解促進と行動変容の喚起
- ② 農業には多様な働き方があるということの周知とより多くの方が農業に携わっていただき、将来的に農業を仕事の選択肢として考えてもらうこと（本業以外に副業として農業に親しむ人々を「パラレルノーカー」と命名）

③ 日頃から道産農畜産物を食している道民の皆様にご感謝を伝えること

本年は第29回JA北海道大会の実践最終年であることから、この取組みと協同の力を梃子として「農業所得の増大」「多様な担い手の確保・育成」「食と農とでつながるサポーター550万人づくり」の目標達成に向けて、実践活動を強化してまいります。

結びになりますが、本年は辛丑年です。牛は古くから酪農や農業で人間を助けてくれた大切な動物でした。大変な農作業を最後まで手伝ってくれる働きぶりから、丑年は「我慢（耐える）」、「これから発展する前触れ」というような年になると伝えられております。

この謂われにあやかり、新型コロナウイルスの1日も早い克服と皆様のご健勝、本年が豊穰の年となりますようご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



## 新年を迎えて

札幌農業協同組合 代表監事

組合員の皆様、新年あけましておめでとうございます。ご家族お揃いで輝かしい新春をお迎えのことと思います。

令和2年を振り返りますと、新型コロナウイルスに始まり、その影響で経済の低迷、感染者の増加、東京オリンピックの延期等、社会に多大なる損害を与えている状況です。11月に入りましてもその勢いも変わらず、第3波の中にいます。政府も定額給付、持続化給付金、GO TOトラベル等対策を打っている状態ですが、先が見えない中にいます。

その様な中、昨年の農業を振り返りますと、春耕期の作業は順調に進みました。8月までは少雨傾向で推移しましたが、8月下旬以降には真夏日が続き、9月に入ると不順な天候が続きました。小麦に於いては、製品数量で反当たり9俵8分となりました。馬鈴しょ、豆類、てん菜、長芋などについては平年作かそれ以上の収穫量となりましたが、小豆の価格の低迷、金時の色流れなど豆類に関しては残念な結果となりました。畜産に於いては、生乳はほぼ計画通りに推移しています。家畜消流は、一時の低迷から上昇傾向にあります。これからは、集荷品の有利販売に努めて頂きたいと思います。

農業情勢は農業者の高齢化や担い手不足など農業の構造変化の中、今後の動きに注目していきたいと思います。農協の運営では、第9次の中長期計画の策定の年です。組合員の皆様の意見を聞きながら取り進めていきたいと思います。また、役員選任円滑化検討委員会に於いては、これからの役員の選任、ブロック割等話し合いが行われております。

監事会としては内部監査室と連携して監査業務を通して経営全般の強化に取り組んでまいります。また、不祥事防止の観点から役職員との意思疎通を図り、コンプライアンスの徹底、内部統制の強化に取り組んでいきたいと考えています。組合員の皆様におかれましては引き続きご協力をよろしくお願い致します。

本年はコロナ過が収まり、災害もなく、豊穰の出来秋を迎えることができますよう心より



お祈り申し上げ、新年の挨拶と致します。



# 新年のご挨拶

札幌農業協同組合 青年部長

新年明けましておめでとうございます。

皆様方には、謹んで新年のお慶びを申し上げます。また、日頃より青年部活動に対しましてご理解、ご支援、ご協力を頂いております組合員の皆様、農協役職員の皆様には改めて感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、比較的好天に恵まれ、作物は概ね順調に推移しました。しかし、9月の長雨により、降水量の地域差はあったものの、農産物の品質低下や収穫作業に若干の遅れが生じました。

青年部の活動では、6月に農協施設周辺の環境整備を行いました。その後、新型コロナウイルスの影響を受け、毎年恒例となっていた農協役職員とのパークゴルフ大会、食育推進事業を中止せざるを得ない状況となってしまいました。その他の青年部事業も感染拡大の恐れがあることから、軒並み中止と致しました。こういった状況の中でも何か行える事業はあったのではないかと後悔の気持ちを感じてなりません。これも私の力不足であり、申し訳ない気持ちでいっぱいです。本年こそは少しずつでも、事業を展開して、今後も次世代を担う農業者となるべく、各種事業を通じて知識や技術の習得、盟友個々の意識の向上を図り、地域農業の振興と魅力ある青年部活動を目指していきたいと考えております。

一方、昨年1月1日に日米貿易協定が発効され、環太平洋経済連携協定（TPP）の水準まで関税を下げるなど大幅な市場開放が行われました。両国の全ての国民に利益をもたらす合意とはほど遠い、日本側の譲歩だけが目立つ不公平な協定となり、日本の農業を存亡の危機に追い込む貿易協定として大きな不安、そして非常に厳しい農業情勢となってしまったのではないのでしょうか。そんな中、私たち農業青年は今まで以上に、命を支える食と農業の大切さを多くの人に伝え、力強い農業を作り上げていかなければならないと考えております。

最後に、本年も変わらぬご支援ご指導をお願い申し上げますとともに、部員各位、そして組合員の皆様の今年一年のご健康とご多幸を祈念し、年頭の挨拶と致します。



# 新年のご挨拶

札幌農業協同組合 女性部長

女性部員、ご家族の皆様、新年明けましておめでとうございます。平素より女性部活動にご理解とご協力頂きありがとうございます。

本年度の活動は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、ほとんどの事業を中止せざるを得ませんでした。

令和元年度の定期総会も北海道による緊急事態宣言を鑑みまして書面議決での開催となり、原案通り可決されました。本年度の事業であります下部組織合同交流会、一日バス研修、管外視察研修も中止と致しました。

このような状況下ではありましたが、7月28日に部員減少に伴う今後の女性部の方向性を考える下部組織合同役員会を新型コロナウイルス感染拡大防止の対策に十分に配慮した上で開催しました。銀鈴会・友の会の役員の方々、高橋組合長にも出席頂き、現状を説明した後、それぞれの立場からの意見を聞かせて頂きました。第2回下部組織合同役員会を12月に予定していましたが、11月になり十勝でも新型コロナウイルス感染者が増えたことを考慮して中止と致しました。

8月には生涯学習として、光沢のあるテープをネットに通して作る、テープヤーンのバッグを9名の参加で制作しました。ソーシャルディスタンスを保ちながらの開催となりましたが、半年ぶりに部員同士が元気に顔を会わすことができ、開催して良かったと感じました。

また、昨年度の事業になってしまいますが、1月のつどいの会でフリーマーケットを企画しました。女性部の活動を広く皆さんに知ってもらいたいとの思いで、案内を女性部員だけでなく組合員全戸にFAX致しました。当日は、あいにく雪が降り、出足が鈍りましたが、部員以外の方や職員の方々に来て頂きました。ありがとうございました。次に組合員全戸に案内する企画をしたときには、たくさんの方に気軽に参加して頂きたいです。

昨年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、小中学校の休校、旅館やホテル、外食産業の休業等で農畜産物にも多大な影響が出ました。農業をとりまく情勢は日々変化し、依然として先行きが心配される状況であります。私達女性は農業経営のパートナーであり、一番身近な消費者でもあります。地域の方々や部員間でいろいろな情報交換をして安全安心な農畜産物を生涯提供できるよう、横の繋がりを大切にしていけたらと思います。

女性部でも、たくさんの方に活動に参加して頂けるよう努力してまいります。

最後になりましたが、今後とも女性部活動にご理解を頂き、ご指導ご協力をお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大の一日でも早い収束と、組合員皆様の今年一年のご健康とご多幸を祈念し、簡単ではございますが新年のご挨拶とさせていただきます。

## 幕別町3JA 農薬選定会議

11月24日に幕別町3JA農薬選定会議が当組合2階会議室にて開催されました。

本会議には、幕別町3JA（札内・幕別・忠類）をはじめ、農業改良普及センター東部支所や幕別町役場農林課など関係機関が出席し、農薬の情勢報告や令和3年度における農作物病害虫防除基準及び除草剤使用基準の作物ごとの具体的変更・掲載内容についての協議を行いました。



## (株)札内フィードシステム 修祓式



11月16日、(株)札内フィードシステムにおけるTMRセンターのバンカーサイロ新築工事完成に伴う修祓式が開催されました。

式典には、高橋組合長や構成員、関係者などが出席し、建物が無事完成したことを感謝すると共に、建物の堅固・安全と関係者の繁栄を祈願しました。